

# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.293

2017年10月

ジェトロとの包括連携協定特別記念シンポジウムを開催

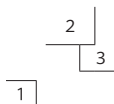


## 目次

●ニュース	
ジェトロとの包括連携協定特別記念シンポジウムを開催	3
名大一産総研アライアンス事業を実施	4
第7回「企業と博士人材の交流会」を開催	4
価値創造型サマーキャンプ「ころたま塾」を開催	5
東海地区産学連携大学コンソーシアム ベンチャー起業支援:成果報告会を開催	5
●知の先端	
「トランスフォーマティブ」環境政策	6
竹内 恒夫（大学院環境学研究科教授）	
●知の未来へ	
痩せ続ける日本女性 ― 痩せ始めた起点はどこか？	8
中村 さやか（大学院経済学研究科准教授）	
●学生の元気	
第71回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会	9
●部局ニュース	
サマースクール「アジアの法と社会2017」を開催	10
第3回理学部装置開発室公開講座「3D工房」を開催	10
平成29年度工学部懇話会を開催	11
ICCAE 第1回オープンセミナーを開催	11
ミクロの探検隊®を開催	12
第54回地球教室「愛知県の石 ピッチストーンってどんな石？」を開催	12
第133回防災アカデミーを開催	13
●受賞者一覧	14
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成29年8月16日～9月15日	19
●イベントカレンダー	23
●ちょっと名大史	
名大の最寄り駅① ― 路面電車の時代 ―	24

# ジェトロとの 包括連携協定特別記念シンポジウムを開催





- 1 | パネルディスカッションの様子
- 2 | 会場全体の様子
- 3 | 総長の開会あいさつ

本学と日本貿易振興機構（ジェトロ）との包括連携協定特別記念シンポジウム「中部地域で羽ばたくグローバル人材の育成と活用に向けて」が、9月5日（火）、キャッスルプラザホテルにおいて開催されました。本学とジェトロは平成27年6月25日に当該連携協定を締結し、様々なイベントをともに実施しています。本イベントは、その成果を踏まえ、更に連携を深めていくことを内外に示す機会として企画され、両者が連携してきた中心的なテーマの一つ、中部地区でのグローバル人材の育成と活用をテーマに実施しました。当日は、松尾総長、石毛博行ジェトロ理事長が出席し、中部地区の企業の方々、本学をはじめとする中部地区の大学教員や留学生等、約250名が参加した盛大なシンポジウムとなりました。冒頭、総長が、主催者を代表としてあいさつし、今後も、ジェトロと連携して中部地区のグローバル人材の育成、活用に努めていくことを表明しました。続いて、石毛理事長、モンテ・カセム立命館大学名誉教授が、それぞれ基調講演を行いました。石毛理事長は、日本企業を対象としたグローバル人材の活用に関するジェトロの取り組みについて紹介し、カセム名誉教授は、自身の体験を踏まえつつ、現在日本の企業とスリランカの間で進められている、発展途上国向けの製品開発プ



ロジェクトの状況、そこで活躍する外国人留学生について紹介しました。続いて、グローバル人材の育成・活用に関連した、今後の本学の取り組みが2件紹介されました。一つは、本学が中心となって設立し、ジェトロの支援も得ている「愛知・岐阜・産学官連携による留学生就職支援コンソーシアムの創設」、もう一つは、大学院国際開発研究科が、来年度から実施を予定している「グローバル企業人材育成特別課程」です。前者は、土井康裕経済学研究科准教授が、後者は岡田亜弥国際開発研究科教授が発表しました。後半は、まず、今までの連携活動の事例報告が行われました。報告されたイベントは、本学とジェトロが連携して実施してきたグローバル人材育成関連イベントで、「留学生を対象としたフー

ドテイスティング」と、留学生を中心とした学生に企業の海外戦略を提案させる「グローバル・ビジネス・ワークショップ」の二つです。パネルディスカッション方式で行われ、イベントに参加した企業の方々や留学生が感想を述べました。最後に、実際に本学に留学し、中部地区に本社のあるブラザー工業株式会社営業・マーケティング推進部で活躍しているウェステニウス・ハンニ氏が登壇しました。中部地区の企業に就職を決めた、自身の体験談、現在の仕事ぶり、そして、日本企業への就職に関心のある留学生に向けたアドバイスをされました。シンポジウム終了後、懇親会が開催され、多くの企業の方々と留学生が活発に交流しました。

## 名大ー産総研アライアンス事業を実施

本学と国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）との連携・協力協定に基づく活動の一環である「名大ー産総研アライアンス事業」の二次審査会が、8月1日（火）、ナショナルイノベーションコンプレックス2階小会議室において実施されました。

本事業は、平成20年度から平成26年度まで実施していた



二次審査会の様子

「FS 調査共同研究」を発展させ、平成27年度から実施しており、今年度が3回目です。目的は、①新たな外部資金の獲得、②研究開発プロジェクトのさらなる骨太化（サブテーマの新設など）、③社会に大きなインパクトをもたらす研究開発プロジェクトの創出を目指す、本学と産総研の研究者による共同研究の支援です。

今年度は、19件の提案があり、書面審査を通過した12件について二次審査会を行いました。1件あたり10分間という決められた時間の中、本学と産総研の研究者がペアを組んだ共同提案を発表し、審査委員からの質疑応答による有意義な意見交換が行われました。

二次審査会後に開催された審査委員会の結果、9件の採択が決定され、共同研究を実施することになりました。今後、材料・化学、情報・人間工学、生命工学、エネルギー環境領域等、多様な領域の課題において、共同研究が推進されます。

本学と産総研の得意分野の技術・研究を互いに補完し合いながら、両機関間の共同研究等における連携強化及び人的交流の活発化が期待されています。

## 第7回「企業と博士人材の交流会」を開催

「企業と博士人材の交流会」が、8月26日（土）、豊田講堂において開催されました。本交流会は社会貢献人材育成本部ビジネス人材育成センターが主催し、参加企業60社、博士課程後期課程学生やポストドクター等の参加博士人材132名と、いずれも過去最高の盛り上がりを見せました。

第1部「ポスターセッション」では、多様な分野からの



ポスターセッションにて企業参加者と活発に議論を行う博士人材

博士人材81名が、自身の研究内容の発表を通じて、企業参加者に自己アピールを行いました。専門分野の異なる方へ発表する難しさを実感する一方、企業目線での意見を得て、白熱したポスターセッションとなりました。また、企業参加者による投票で、ポスターセッションにて優秀だった5名が表彰されました。

第2部「交流セッション」では、企業プレゼンテーションの後、博士人材が興味ある企業のブースを訪問し、博士人材に対する期待とニーズ、企業の業務内容、企業動向、博士の活躍状況等に関して情報交換を行いました。座談会形式でざっくばらんに交流を行うブースもあり、企業との間で相互理解が深まったようでした。

本交流会には、文部科学省「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」にて連携している、北海道大学や東北大学等の博士人材も参加しており、各大学が保持している企業とのつながりを連携機関間で共有化することで、博士人材と企業との新たな接点の創出という効果につながっています。本交流会での出会いを足がかりに、産業界における博士人材の活躍の場の促進や拡大、産学共同研究の発展につながることを期待されます。

## 価値創造型サマーキャンプ「ころたま塾」を開催

株式会社デンソー及び本学による価値創造型サマーキャンプ「ころたま（コロンブスのたまご）塾」が、8月30日（水）から9月1日（金）までの3日間開催され、本学の学部学生・大学院生17名（文系学生8名、理系学生9名）が参加しました。

本サマーキャンプは、5月23日（火）に本学と株式会社デ



ころたま塾集合写真

ンソーとの間で締結した共創教育及び価値創造に関する連携協定による取り組みの第一弾であり、文系と理系の枠を超えた活動を通じ、発想の転換から生み出される喜びの体験と、未来を切り拓く研究テーマの創出を期待し開催されました。

このキャンプでは、デンソー本社で講義を受講し、西尾製作所を見学しました。その後、静岡県浜松市にあるデンソーグローバル研修センター AQUAWINGS へ移動し、「移動体と人との融和」をテーマに、文理融合のグループを作り、グループワークを実施しました。

最終日には、各グループから文系学部・理系学部の発想の違いを活かしたユニークなアイデアの発表が行われました。その後、デンソー関係者、本学教員・学生から質問やコメントがあり、活発な議論が行われました。

## 東海地区産学連携大学コンソーシアム ベンチャー起業支援：成果報告会を開催

東海地区産学連携大学コンソーシアム ベンチャー起業支援：成果報告会が、9月1日（金）、野依記念学術交流館において開催されました。本コンソーシアムは、本学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、岐阜大学、三重大学の5大学で組織しています。この5大学のシーズを基にしたベンチャー起業を支援するための「スタートアップ準備資

金」に平成28年度採択された5大学10名の教員がこれまでの成果を報告しました。併せて5大学で実施している主に学生向けのアントレプレナーシップ教育支援「Tongali ビジネスプランコンテスト奨励金」に平成29年5月に選ばれた5名の本学学生が中間報告を行いました。

平成28年3月にベンチャー起業支援として、日本ベンチャーキャピタル株式会社が5大学に由来するベンチャーに投資する「名古屋大学・東海地区大学広域ベンチャーファンド」を設立しました。そのファンドに出資した金融機関関係者などを今回の成果報告会に招き、大学発シーズの社会実装を加速するためのイベントとしました。当日は、100名ほどの参加者があり、熱のこもった質疑応答などが行われました。

これまでに、教員関連のベンチャー企業3社、学生関連のベンチャー企業4社が設立されています。それぞれが特徴のある事業を運営しており、今後の活躍が期待されています。本学では、ベンチャー起業支援に今後も積極的に取り組み、東海地区の地域活性化、さらには、東海地区からのイノベーション創出を目指しています。



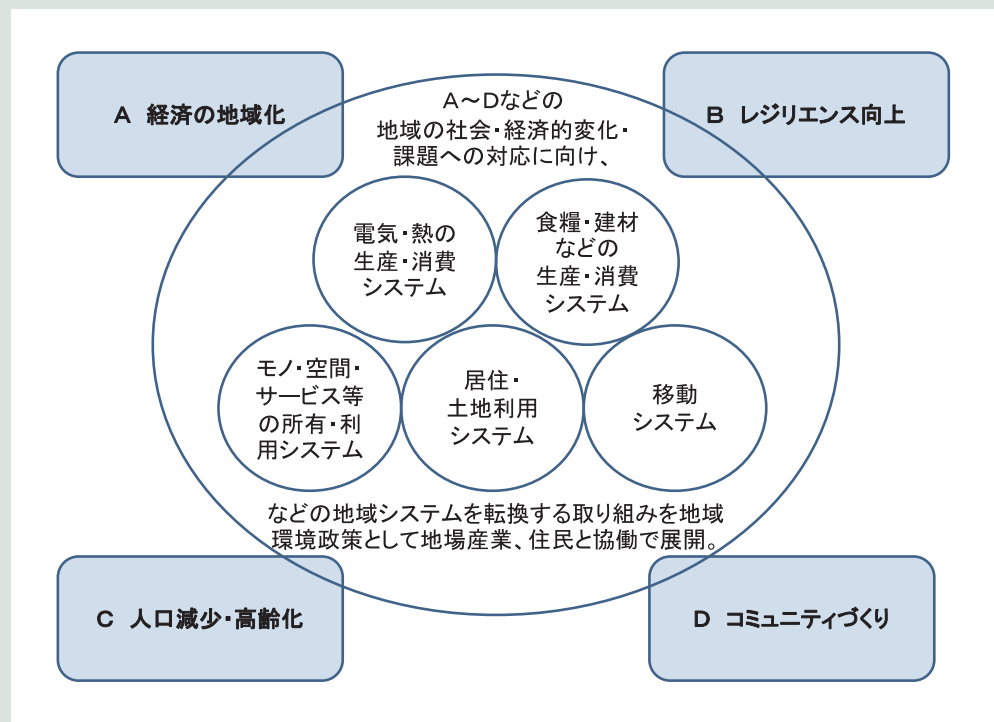
学生ベンチャーの発表の様子

# 「トランスフォーマティブ」環境政策

竹内 恒夫 大学院環境学研究科教授

第3の環境政策として「Transformative Environmental Policy」が提唱されています (Free University Berlin, Environment Policy Research Centre (FFU), 2015)。環境政策は、これまで、環境汚染・自然利用を「規制」し、次に、「政策統合」(エネルギー政策、交通政策などの統合)によって低炭素社会・循環型社会などを目指してきましたが、「トランスフォーマティブ環境政策」は、これらに加え、進みつつある社会・経済の変化・課題に対応して社会のさまざまなサブシステムを変換することにより、環境負荷を低減し、持続可能な社会(環

境と社会・経済の統合)への転換を図る環境政策であり、持続可能な社会構築のガバナンス手法のひとつとして提案されているのです。同じくドイツの Wuppertal Institute for Climate, Energy, Environment は、2016年から、社会的課題の解決に貢献する「Transformative Research」として、real world laboratoryにおいて、研究者とステークホルダーの協働による「energy transition in Ruhr region」、「well-being transformation in Wuppertal」などの研究プロジェクトを始めています。



トランスフォーマティブ環境政策

この国の環境政策は、公害などに対する「規制」は成功したが、1980年代末からの化石燃料、生物資源などの大量消費に伴う環境課題に対しては、「政策統合」よりも「国民運動」などに重点が置かれ、CO2排出削減などの実はあがっていません。

そこで、特に、地域において、それぞれの地域の課題に応じた「トランスフォーマティブ環境政策」を確立し、持続可能な地域を構築していくことが必要なのです。具体的には、自治体、地場企業経営者、住民などと連携し、まず、地域ごとの「社会的・経済的変化・課題」（例：地域経済化、レジリエンス向上、人口減少・高齢化など）を把握・分析し、次に、これらの変化・課題に関連する地域のサブシステム（例：モノ・エネルギーの生産・消費システム、モノ・スペースなどの所有・利用システム、人の移動システムなど）の変換のあり方をフレーミングしたうえで、それらサブシステムの変換手法（事業化手法など）、環境負荷低減効果の定量的評価モデル、サブシステム変換の連環・波及の計画手法、人材育成プログラムなどを社会実験などを通じて開発し、これらを統合して地域ごとの「トランスフォーマティブ環境政策プログラム」をつくるのです。

筆者は、これに関連する研究として、これまで、①分散型エネルギーシステム、コンパクトシティ、バイクシェアリングなどを組み合わせた名古屋市のCO2排出量2050年マイナス80%ロードマップの作成、②地域に根差した低炭素策が地域経済・雇用に効果的であることのモデルによる実証、③分散型エネルギーシステムが気候変動緩和（CO2排出削減）と適応（レジリエンス）を統合する手法であり、特に、地産地消型の電力小売事業は地域からのCO2大幅削減、資金還流などの

観点からも有効であることの実証などを実施し、また、社会実験事業として、④リユースびんのリユースシステム、⑤名古屋市における放置自転車再使用型コミュニティサイクル（名チャリ）、⑥リユースステーションによるリユース事業、⑦リユース促進のコベネフィットとしてのCO2削減などを実施してきました。

そして、この秋から、全国の市町村を対象に、「世界気候エネルギー首長誓約／日本」を立ち上げます。これは、欧州連合（EU）から獲得したプロジェクト（3年間で100万ユーロ）ですが、①エネルギーの地産地消、②2030年に25%以上のCO2削減（又は26%以上の温室効果ガス削減）、③気候変動への適応・レジリエンス向上、の3つに取り組むもうとする自治体の首長に、その旨を誓約してもらい、誓約自治体は、「アクションプラン」を作成し、実施するという仕組みです。EUでは、2008年から「首長誓約」を始めており、既に7500を超す自治体が誓約し、これを世界に広めようというのです。

この「アクションプラン」は、まさに、自治体における「トランスフォーマティブ環境政策プログラム」なのである。

愛知県美浜町生まれ。名古屋大学経済学部卒業。1977年～2006年環境庁・環境省勤務。主に地球温暖化対策、リサイクル・リユース対策を担当。この間、ベルリン自由大学留学、フッパータール気候環境エネルギー研究所客員研究員。2006年から現職。  
モットー：「足を知らば恥ずかしからずや、止まるを知らば危うからずや、もって長久なるべし」（老子）。  
趣 味：地元の魚料理、太陽光発電・太陽熱温水器・薪ストーブ。  
著 書：「環境構造改革―ドイツの経験から―」（2004年）、「地域環境戦略としての充実型地域システムへの変換」（2016年）など。

たけうち つねお



中村 さやか  
大学院経済学研究科准教授

## 痩せ続ける日本女性―痩せ始めた起点はどこか？

世界中で肥満が深刻化する中、日本女性は戦後一貫してBMI（ボディマス指数）が減少し痩せ続けています。かくも長期にわたる痩せの進行は先進国では他に例がありません。日本男性のBMIは増加し続けており、痩せの進行は女性に限定されています。

多くの社会では経済発展と共にBMIが増大しており、日本女性においても時代をさらに遡ればBMIが増加していた時期があり、ある時点を境に減少を始めたと考えられます。私はシドニー工科大学准教授の丸山士行氏との共同研究で、どの世代のどの年齢においてBMIの減少が始まったかを分析しました<sup>(1)</sup>。幸いなことに、日本では戦後から現在まで国民（健康）栄養調査による国民全体の身長・体重の良質なデータがあり、さらに児童・生徒については1900年から現在までの学校での身体測定結果のデータがあります。非線形性を許容するノンパラメトリック回帰分析という新しい手法で、日本人男女のBMIの変化を年齢に伴う変化とコーホートによる違いに分解し、変換

点を探りました。

その結果、成人女性のBMIの減少は、ある時期から全世代が痩せ始めるという時代効果ではなく、BMIが1930年代生まれの世代が最も高くそれ以降は若い世代ほど低いという世代効果によることがわかりました。一方成人男性は世代を追うごとに全ての年齢層でBMIが増加し続けています。さらに10代半ばでは男女とも20世紀を通じてBMIが増加し続けており、女性のBMI減少は10代後半以上の年齢のみで見られる現象です。これらのことから、日本女性が痩せ始めた起点は1930年代生まれの世代が10代後半になったあたりだと言えます。終戦直後は女性の地位や家族制度が大きく変化した時期であり、ライフスタイルや行動に男女で異なる変化が生じた結果、体型変化に大きな性差が生じたと考えられます。

(1) Maruyama S, Nakamura S, 2015. The decline in BMI among Japanese women after World War II, *Economics & Human Biology*, 18: 125-138.

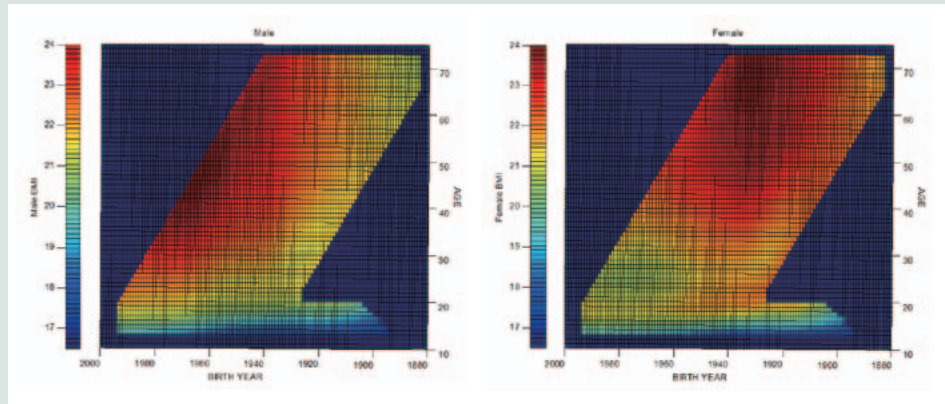


図1 ノンパラメトリック回帰分析に基づく男女別BMIの年齢（縦軸）・生年（横軸）による変化。左が男性、右が女性。紺色はデータ不足のため分析が行われていない部分を示す。出典：Maruyama and Nakamura (2015, Figure 3 (a), p131).



第71回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会

第71回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会（名阪戦）が、主に5月から7月の土・日曜日に大阪大学を当番校として開催されました。今年度は男子33種目、女子12種目を実施し、大阪大学の運動施設を主な会場として熱戦が繰り広げられ、両校の学生は本大会を通して互いに競技のレベルを高め合うとともに交流を深めました。

大会は9月に最終種目を終え、男子が14勝19敗、女子が5勝7敗、総合成績では19勝26敗で、

大阪大学の勝利となりました。

今大会の結果で、本学の大会通算成績は、男子が21勝45敗5分け、女子が23勝36敗7分けとなりました（総合成績の制度が導入された第20回から今回までの総合通算成績は、本学の19勝29敗4分け）。

なお、来年度の名阪戦は本学が当番校となり開催されます。

第71回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会対戦結果表

種目	対戦結果		種目	対戦結果		種目	対戦結果	
	名大	阪大		名大	阪大		名大	阪大
アーチェリー	×	○	漕艇	○	×	アーチェリー	×	○
アイスホッケー	×	○	ソフトテニス	○	×	空手道	×	○
アメリカンフットボール	○	×	ソフトボール	○	×	弓道	×	○
空手道	×	○	体操	○	×	剣道	○	×
弓道	×	○	卓球	×	○	硬式テニス	×	○
剣道	×	○	バスケットボール	×	○	漕艇	○	×
航空	○	×	バドミントン	×	○	ソフトテニス	○	×
硬式テニス	○	×	バレーボール	○	×	体操	○	×
硬式野球	×	○	ハンドボール	×	○	卓球	×	○
ゴルフ	○	×	フィギュアスケート	×	○	バスケットボール	○	×
サッカー	×	○	ライフル射撃	×	○	バドミントン	×	○
自動車	○	×	ラグビー	×	○	バレーボール	×	○
柔道	×	○	ラクロス	×	○	フィギュアスケート	×	○
準硬式野球	○	×	陸上競技	×	○	ラクロス	×	○
少林寺拳法	×	○	相撲	○	×	陸上競技	○	×
水泳	○	×	フィールドホッケー	×	○	女子成績	5勝	7勝
スキー	○	×	男子成績	14勝	19勝	総合成績	19勝	26勝

\*空手道（女子）・体操（女子）は、オープン競技のため成績に加算しない



アメリカンフットボール



水泳（水球競技）



硬式テニス



陸上女子

## サマースクール「アジアの法と社会2017」を開催

●大学院法学研究科、法政国際教育協力センター

大学院法学研究科及び法政国際教育協力センター(CALE)は、8月21日(月)、22日(火)の両日、アジア法交流館2階アジアコミュニティフォーラムにおいて、サマースクール「アジアの法と社会2017」を開催しました。同サマースクールは、次世代のアジア諸国法研究者や法整備支援の担い手を育成することを目的としており、法務



学生の発表の様子

省、公益財団法人国際民商事法センター、慶應義塾大学等との連携企画「アジアのための国際協力 in 法分野」の一環として開催されました。

1日目は、アジア諸国における法治主義、ミャンマービジネス法、インドネシアの伝承知識と慣習儀礼に関する講義、また、法整備支援に実際に携わっている検事及び弁護士から自身のキャリアと法整備支援についての紹介がありました。2日目は、異なる法体系を有する国の学生にどのように日本法を教授するか、日本法教育研究センターでの実践を紹介し、同センターの学生と各国における所有権制度の課題について議論しました。アジア各国は、社会主義を経験し、日本とは異なる所有権制度を有しており、参加者は、日本の制度と比較しながら熱心に議論をしました。同サマースクールでは、体制転換にともなう法改革に関する様々な課題が明らかになり、12月2日(土)に慶應義塾大学において開催される「法整備支援シンポジウム」にて学生グループによる研究発表が予定されています。

## 第3回理学部装置開発室公開講座「3D 工房」を開催

●大学院理学研究科

大学院理学研究科は、8月31日(木)、東山キャンパスにおいて、理学部装置開発室で3回目となる公開講座を開催しました。同講座は、同研究科や博士課程教育リーディングプログラム「フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム」などで行われている最先端の科学研究や装置開発室の研究支援を、広く一般の方に興味を持ってもらうことを



受講生がデザインしたジャイロスコープモデル造形品

目的に開催しました。

「3D 工房」をテーマとして、一般の方が3D-CAD (SolidWorks) を操作してモデリングを行い、モデリングを3D プリンタで造形する製造工程を体験しました。

受講生は、ジャイロスコープモデルを創るために、初めての3D-CAD の操作に戸惑いながらも操作方法を覚え、自由な模様や形状にデザインしました。そして、自分達がモデリングした形を、3D プリンタが少しずつ造形している光景を観察し、実際に形になったものを手に取り楽しんでいました。3D プリンタを活用した最先端の研究事例や、産学連携による最先端の3D プリンタの技術講演を熱心に聞いている様子から、一般の方の3D-CAD や3D プリンタへの関心の高さを感じることができました。その後装置開発室を案内し、大学内でものづくりをする現場も見学しました。

今回は、実習形態の講座ですが高校生から社会人、本学学生、研究者、教員、留学生まで26名と多くの方が参加し、各受講生に対して印象深い講座にしました。今回の経験を踏まえ、よりよい講座にして今後につなげていく予定です。

## 平成29年度工学部懇話会を開催

### ●工学部

工学部は、8月8日(火)、ベンチャービジネスラボラトリ3階ベンチャーホールにおいて、平成29年度工学部懇話会を開催しました。同懇話会は、高等学校の進路指導担当教諭を対象に、工学部の教育・研究を評価していただくこと等を目的に、平成8年度から毎年開催しています。

工学部・工学研究科では、平成29年4月に学部及び大学



本学の教育研究の概要を説明する新美工学部長

院を一体で改組したことから、今回は「新工学部・工学研究科が目指す教育・研究」をテーマとし、東海・北陸、関東、関西地区等から計10都府県50校、56名の教諭が参加しました。

懇話会の前半は、新美工学部長から、あいさつと組織改編後の概要説明があった後、新7学科の教育・研究について、映像による紹介が行われました。続いて、事前に寄せられた入試、進路等に関する質疑に対し、工学部教員が回答しました。また、当日出席者から改組後のカリキュラムや学生の就職活動の現状等の質疑もありました。

後半は、博士課程前期課程1年の崔 敏さんが、学生生活、研究室での1日、取り組んでいる研究とその面白さ等を紹介し、参加者からは「学生生活や研究の様子がよく分かり、将来の研究者に活躍する場が与えられていることが印象的だった」等の感想がありました。続いて、参加者は7学科に分かれて研究室を見学し、現在進めている研究内容の説明を受けました。研究室での大学院生との対話を通じて、学生が成長する様子にも直に接しました。

懇話会の全過程を通じ、参加した先生方には、工学部における教育・研究活動の魅力を十分に理解いただけました。

## ICCAE 第1回オープンセミナーを開催

### ●農学国際教育協力研究センター

農学国際教育協力研究センター(ICCAE)は、8月31日(木)、農学部第7講義室において、2017年度第1回オープンセミナー「インドネシアにおける稲作の安定化に向けて－気候変動に対する取り組み－」を開催しました。今回はインドネシア・ボゴール農科大学生物資源・バイオテクノロジー研究センターの事務局長を務めるアフマッド・



ジュナエディ准教授による講演の様子

ジュナエディ同大学農学部准教授を招きました。

インドネシアは人口の増加が続いており、米需要の伸び率は世界全体の伸び率に比べて大きく、生産量の増大が深刻な課題となっています。背景には、肥沃な農地が非農耕地へ転換されているという土地利用の問題、また、肥沃性に問題のある土地の活用においては、割高な生産コストと低い生産性といった問題があります。インドネシアの気候は年間を通じて稲作が可能ですが、その実施には適正技術の適用や持続性を考慮した栽培の実践が重要です。同セミナーでは、乾燥、洪水、高温といった地球規模の気候変動に対する稲作の安定化と、収量の向上に向けてインドネシアが日本や各国の研究機関と取り組む最近の研究情報を共有し、学内外の参加者とともに効果的な国際共同研究の推進に向けて意見交換を行いました。

## ミクロの探検隊®を開催

### ●博物館

博物館は、8月5日(土)、19日(土)の両日、博物館実験室、展示室、野外観察園において、「ミクロの探検隊®名古屋大学のムシを電子顕微鏡で観察しよう!」を開催しました。

今回のミクロの探検隊は、10月23日(月)まで開催される企画展「ムシの世界」の関連イベントです。当日の参加者



ビートネットを使った昆虫採集の様子

は抽選で選ばれたムシ好きの小中高生が中心で、5日は21名、19日は20名でした。まずはじめに野外観察園で、ビートネットを上手にを使ってハムシ、ゾウムシ、アリ、クモなどの小さな虫を捕まえました。捕まえた虫は採集瓶に入れ、実験室へ持ち帰りました。

実験室では最初に、実体顕微鏡を使った虫の観察を行いました。実体顕微鏡は初めて使う参加者が多いようでしたが、教わるとすぐに慣れ、簡単に扱えるようになりました。その後、電子顕微鏡試料作り、走査型電子顕微鏡を使っての観察を行いました。自分で採集した虫を試料とし、自分で電子顕微鏡を操作して観察が出来るのが、この企画の最も楽しいところです。肉眼では見る事の出来ない電子顕微鏡の世界へ参加者はどんどん引き込まれていきました。その間にも講義「虫って何?」を受けたり、企画展「ムシの世界」の見学をしたり、撮影した虫の写真でポストカードを制作したり、充実した一日を過ごしました。

アンケート結果でも「とても楽しかった。また参加したい。ムシにあんなにたくさんの毛が生えていて驚いた」など好評で、ミクロ世界の楽しさを知り、夏休みの良い思い出となったようです。

## 第54回地球教室「愛知県の石 ピッチストーンってどんな石?」を開催

### ●博物館

博物館は、8月26日(土)、27日(日)の両日、第54回地球教室を開催しました。参加者は小学3年生から一般の31名で(そのうち小学・中学・高校生は14名)、定員の2倍を超える応募者から選ばれました。テーマは、愛知県の石ピッチストーン(松脂岩)です。

1日目は博物館において、ピッチストーンの観察や火山



ピッチストーンがある鳳来寺山で露頭見学を行う参加者の様子

との関わりについての講義、ピッチストーンのできかたを理解する実験、ピッチストーンと同じ火山ガラスから石器を作る体験を行いました。こうした事前学習を踏まえて、2日目にはピッチストーンがある鳳来寺山に出かけました。当地に分布する様々な火山岩を見学したほか、山麓を流れる河原でピッチストーン採集も行いました。事前学習で岩石を見る目を養った参加者は、主体的に観察や採集を行っていました。日差しの強い日だったので、昼休憩は鳳来寺山自然科学博物館の一室を借りて涼み、同時に展示見学も行うことによって、動植物も含めた幅広い郷土の自然に触れました。最後は、鳳来寺山山頂の鏡岩までハイキングし、巨大なピッチストーンをもたらした古代の火山活動について解説を行いました。

地球教室は名古屋市科学館との連携事業です。また、内容や参加者サポートを拡充するために、愛知大学からもスタッフの協力を得て、今後も継続していきます。

## 第133回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、9月5日(火)、減災館1階減災ホールにおいて、第133回防災アカデミーを開催しました。

今回は、関根正人早稲田大学理工学術研究院教授による講演「東京をはじめとした大都市で発生する大規模浸水とは」が行われ、約100名の参加がありました。関根教授は、



講演する関根教授

大都市域に豪雨が降った際に起こる浸水現象の予測システムを長年開発してこられたその道の第一人者です。

関根教授によれば、都市の地下に整備されている下水道は雨水を速やかに排除し浸水を抑制してきた一方、近年、全国各地で頻発している記録的な豪雨が都市に降ると、下水道から逆流した水が道路などにあふれ、大規模な浸水(内水氾濫)が発生するとのことです。下水道が雨水を排除できる能力は、時間雨量50 mm(東京23区の場合)までであることから、これを超える規模の雨が降ると、地表から一気に流れ込んだ雨水が下水管を「満管」状態にして、マンホールから噴出する強い水流を生み出し、地下の下水道からの逆流が浸水域を広げることになります。浸水予測シミュレーションの映像から、どのような場所での浸水危険性が高いのかが良く分かりました。基準雨量が設定された下水道を活用しながら、浸水被害を軽減するためには、下水道に流れ込む水を減らし、遅らせる、地上での雨水貯留が有効であることから、内水氾濫対策は、豪雨の際の各家庭での水使用をできるだけ控え、可能な限り「雨水貯留」を推進すべきことを、出席者一同肝に銘じました。

教員

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H28.11.17	2017年度日本鋼構造協会 論文賞	大学院工学研究科教授	館石 和雄	
H28.12. 3	日本網膜硝子体学会 第9回田野 Young Investigator's Award	医学部附属病院病院講師	兼子 裕規	
H29. 2.17	文部科学省ナノテクノロジープラットフォーム 平成28年度利用6大成果最優秀賞		名古屋大学 微細構造解析 プラットフォーム	山本剛久(大学院工学研究科教授)、 荒井重勇(未来材料・システム研究所特任 准教授)、他5名と連名
H29. 2.17	文部科学省ナノテクノロジープラットフォーム 平成28年度優秀技術賞	未来材料・システム研究所 特任准教授	荒井 重勇	
H29. 3.16	日本機械学会 第95期生産システム部門 学術業績賞	大学院工学研究科助教	早坂 健宏	
H29. 4.11	情報処理学会 第112回数理モデル化と 問題解決研究会 ベストプレゼンテーション賞	大学院工学研究科准教授	吉川 大弘	高倉健太郎(大学院工学研究科 M2)、 古橋 武(大学院工学研究科教授)と連名
H29. 4.23	土木学会 平成28年度構造工学論文集 Vol.63A 優秀査読者賞	大学院工学研究科准教授	判治 剛	
H29. 4.23	土木学会 第63回構造工学シンポジウム 論文賞	大学院工学研究科准教授	北根 安雄	上山裕太(大学院工学研究科 M2)、 他2名と連名
H29. 5.17	第20回理論化学研究会 優秀講演賞	トランスフォーマティブ 生命分子研究所特任准教授	横川 大輔	
H29. 5.31	2017年日本顕微鏡学会 論文賞	未来材料・システム研究所 特任准教授	荒井 重勇	田中信夫(名誉教授)、他5名と連名
H29. 6. 2	廃棄物資源循環学会 奨励賞	減災連携研究センター 准教授	平山 修久	
H29. 6. 8	人工知能学会 研究会優秀賞	大学院情報学研究科教授	山本修一郎	他2名と連名
H29. 6. 9	地盤工学会 論文賞(英文部門)	減災連携研究センター教授	野田 利弘	山田正太郎(大学院工学研究科准教授)、 田代むつみ(未来社会創造機構特任講師)、 他1名と連名
H29. 6. 9	平成28年度土木学会 田中賞 論文部門	大学院工学研究科教授	館石 和雄	判治 剛(大学院工学研究科准教授)、 清水 優(大学院工学研究科助教)、他1名 と連名
H29. 6.12	国際天文学連合(IAU) 第1回博士号賞	大学院理学研究科日本学術 振興会特別研究員(PD)	高棹 真介	
H29. 6.14	愛知県 平成29年度地域環境保全功労者及び 地域環境美化功績者への環境大臣表彰	名誉教授	田中 剛	
H29. 6.16	平成28年度花王科学賞	物質科学国際研究センター 教授	唯 美津木	
H29. 6.19	一般社団法人交通工学研究会 第31回交通工学研究会 論文賞	大学院環境学研究科教授	中村 英樹	他3名と連名
H29. 6.23	PCN Reviewer Awards 2016	大学院医学系研究科 寄附講座助教	森川 真子	
H29. 6.23	第22回日本緩和医療学会学術大会 最優秀演題賞	大学院医学系研究科准教授	佐藤 一樹	他7名と連名
H29. 6.23	日本精神神経学会 学術総会 優秀発表賞 (第113回学術総会部門)	大学院医学系研究科 客員研究者	宮田 明美	
H29. 6.27	Honorary Award of 2017, Thammasat University	農学国際教育協力研究 センター教授	江原 宏	
H29. 6.29	第21回日本がん免疫学会総会 若手研究奨励賞	高等研究院特任助教	佐藤 和秀	
H29. 6.30	Outstanding Poster Award, IFSA-SCIS 2017	大学院工学研究科助教	ジメネス フェリックス	吉川大弘(大学院工学研究科准教授)、 古橋 武(大学院工学研究科教授)、 他1名と連名
H29. 6.30	Lecture Award, International Symposium on Pure & Applied Chemistry (ISPAC) 2017	未来社会創造機構特任講師	小野島大介	
H29. 7. 3	日本学術振興会 ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞	大学院理学研究科教授	澤田 均	
H29. 7. 4	Poster Award, Shimadzu Global Innovation Summit 2017	大学院医学系研究科准教授	財津 桂	林 由美(大学院医学系研究科助教)と 連名
H29. 7. 4	新化学技術推進協会 第6回JACI/GSCシンポジウム GSCポスター賞	大学院工学研究科助教	内山 峰人	佐藤浩太郎(大学院工学研究科准教授)、 上垣外正己(大学院工学研究科教授)と 連名
H29. 7. 6	2017 IBM Faculty Award (IBM Corporation)	大学院情報学研究科教授	長尾 確	
H29. 7. 7	日本ロレアル 第12回「ロレアルユネスコ 女性科学者 日本奨励賞」	生物機能開発利用研究 センター研究員	別所 奏子	

## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H29. 7. 7	第10回資生堂 女性研究者サイエンスグラント	大学院工学研究科助教	溝尻 瑞枝	
H29. 7.10	愛知県 第36回温泉関係功労者表彰	名誉教授	田中 剛	
H29. 7.11	日本毒性学会 2017年度技術賞	大学院医学系研究科助教	織田 進吾	
H29. 7.13	日本生化学会 2017年度「JB 論文賞」	大学院生命農学研究科教授	吉村 徹	
H29. 7.13	日本生化学会 2017年度「JB 論文賞」	大学院生命農学研究科講師	伊藤 智和	
H29. 7.18	第28期可視化情報学会 学会賞 (奨励賞)	未来材料・システム研究所 准教授	松田 佑	
H29. 7.19	Guthikonda Lectureship, Stanford University	トランスフォーマティブ 生命分子研究所教授	伊丹健一郎	
H29. 7.21	第12回日本うつ病学会 学会奨励賞	大学院医学系研究科 客員研究者	久保田智香	
H29. 7.21	第十四回「次世代の太陽光発電システム」 シンポジウム イノベティブ PV 賞	大学院工学研究科教授	宇佐美徳隆	羽山優介 (大学院工学研究科 M2)、 高橋 勲 (大学院工学研究科助教)、 横井達矢 (大学院工学研究科助教)、 松永克志 (大学院工学研究科教授)、 他 4名と連名
H29. 7.24	文部科学省 第1回インフラメンテナンス大賞	大学院環境学研究科教授	奥宮 正哉	田中英紀 (施設・環境計画推進室特任教授)、 恒川和久 (工学部准教授)、 太幡英亮 (工学部准教授) と連名
H29. 7.25	Design Contest Award Honorable Mention, The 23rd ACM/IEEE International Symposium on Low Power Electronics and Design (ISLPED 2017)	大学院工学研究科助教	田中 雅光	佐藤 諒 (大学院工学研究科 M2)、 畑中湧貴 (大学院工学研究科 M2)、 松井裕一 (大学院工学研究科 M1)、 藤巻 朗 (大学院工学研究科教授)、 他 4名と連名
H29. 8. 6	ベストプレゼンター賞 (第1回 COI 若手研究者アイデアソン合宿)	未来社会創造機構特任講師	小野島大介	富田竜太郎 (学術研究・産学官連携推進 本部 地域連携・情報発信グループ URA) と 連名
H29. 8. 8	日本食品工学会 2016年度研究賞	大学院工学研究科教授	後藤 元信	
H29. 8.19	日本医学教育学会 平成29年度医学教育賞 牛場賞第29号	名誉教授	伴 信太郎	
H29. 8.29	日本実験力学会 論文賞	大学院工学研究科准教授	森田 康之	巨 陽 (大学院工学研究科教授)、 他 1名と連名
H29. 9. 1	2017年度第4回 IRMAIL サイエンスグラント ヴァーダー・サイエンティフィック賞	教養教育院講師	伊藤 英人	
H29. 9. 1	内閣府 第15回 (平成29年度) 産学官連携 功労者選考委員会 特別賞	大学院工学研究科教授	佐宗 章弘	石川隆司 (ナショナルコンポジット センター特任教授) と連名
H29. 9. 6	第15回日本金属学会 学術貢献賞	大学院工学研究科教授	村田 純教	
H29. 9. 6	第65回日本金属学会 論文賞	大学院工学研究科助教	鈴木 飛鳥	湯川 宏 (大学院工学研究科助教)、 村田純教 (大学院工学研究科教授)、 他 2名と連名
H29. 9. 6	高分子学会広報委員会 パブリシティ賞	大学院工学研究科講師	野呂 篤史	
H29. 9. 8	基礎有機化学会 平成29年度 (第13回) 野副記念奨励賞	大学院理学研究科准教授	深澤 愛子	
H29. 9. 8	第22回日本脳腫瘍の外科学会 会長賞	医学部附属病院助教	竹内 和人	
H29. 9. 8	日本神経化学会 2017年度優秀賞	医学部附属病院准教授	永井 拓	
H29. 9. 9	文部科学省 新学術領域研究「先端モデル動物 支援プラットフォーム」平成29年度若手支援 技術講習会 ベストポスター賞	大学院医学系研究科 特任助教	高岸 麻紀	
H29. 9.11	The Angewandte Festsymposium on the occasion of the 150th anniversary 講演	トランスフォーマティブ 生命分子研究所教授	伊丹健一郎	
H29. 9.11	日本生物工学会 第40回生物工学奨励賞 (照井賞)	大学院創薬科学研究科 准教授	加藤 竜司	
H29. 9.11	日本分析化学会 奨励賞	大学院工学研究科助教	安井 隆雄	
H29. 9.13	平成29年度電子情報通信学会通信 ソサイエティ 活動功労賞	教養教育院教授	山里 敬也	
H29. 9.13	日本ロボット学会 第10回功労賞	未来社会創造機構教授	新井 史人	
H29. 9.20	2017 ICI Distinguished Lecturer, University of Calgary	トランスフォーマティブ 生命分子研究所教授	伊丹健一郎	

## 学生

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H29. 1.20	日本機械学会 若手優秀講演フェロー賞	大学院工学研究科 D1	荒金 駿	

## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H29. 3.27	2016年度日本機械学会三浦賞	大学院工学研究科 M2	堀部 貴雅	
H29. 4. 1	Presentation Award, IEEE Nagoya Section Conference	大学院工学研究科 M2	小林 敦希	
H29. 5.19	平成28年度日本リモートセンシング学会論文奨励賞	大学院環境学研究科 D3	林 正能	石坂丞二（宇宙地球環境研究所教授）、他5名と連名
H29. 5.20	軽金属学会 第132回春期大会 優秀ポスター発表賞	大学院工学研究科 M1	竹安崇一郎	
H29. 5.24	日本地球惑星科学連合2017年大会 生物地球化学セッション 優秀ポスター賞	大学院環境学研究科 M1	三好 友子	
H29. 5.25	Best Paper Award, The Thirteenth International Conference on Autonomic and Autonomous Systems (ICAS2017)	大学院工学研究科 M2	神谷 貴文	鈴木達也（大学院工学研究科教授）と連名
H29. 5.31	日本地球惑星科学連合2017年大会 学生優秀発表賞	大学院環境学研究科 D1	辻 大輔	
H29. 6. 1	電子情報通信学会 論文賞	大学院工学研究科 M2	内田 雄基	大橋一輝（大学院工学研究科 M2）、高橋桂太（大学院工学研究科准教授）、藤井俊彰（大学院工学研究科教授）と連名
H29. 6. 5	Best Abstracts Presented by Young Authors, The 54th ERA-EDTA Travel Grants	大学院医学系研究科 D4	船橋 嘉夫	
H29. 6. 5	電子情報通信学会 画像工学研究専門委員会 IE 賞	大学院工学研究科 M2	八木 祐亮	高橋桂太（大学院工学研究科准教授）、藤井俊彰（大学院工学研究科教授）、他2名と連名
H29. 6. 8	第33回化学反応討論会 ベストポスター賞	大学院情報科学研究科 D3	松本健太郎	
H29. 6. 8	第33回化学反応討論会 ベストポスター賞	大学院理学研究科 M2	橋ヶ谷かすみ	
H29. 6. 9	第8回触媒科学研究発表会 優秀ポスター発表賞	大学院工学研究科 M1	加藤 颯介	
H29. 6.10	第39回日本血栓止血学会学術集会 優秀ポスター賞	大学院医学系研究科 M2	橋本恵梨華	
H29. 6.10	第39回日本血栓止血学会学術集会 優秀ポスター賞	大学院医学系研究科 M2	藤岡 亮也	
H29. 6.10	日本古生物学会 優秀ポスター賞	大学院環境学研究科 D1	安藤瑚奈美	藤原慎一（博物館助教）と連名
H29. 6.15	平成28年度 電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞（修士）	大学院工学研究科 M2	中島 康雄	
H29. 6.15	平成28年度 電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞（修士）	大学院工学研究科 M2	小林 敦希	
H29. 6.15	平成28年度 電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞（修士）	大学院工学研究科 M2	小林 優斗	
H29. 6.15	平成28年度 電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞（修士）	大学院工学研究科 M2	山上 修平	
H29. 6.15	平成28年度 電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞（学士）	大学院工学研究科 M1	山岡 修平	
H29. 6.18	音学シンポジウム2017（第115回音楽情報科学研究会）学生奨励賞	大学院情報学研究科 M1	山田 智也	戸田智基（情報基盤センター教授）、他2名と連名
H29. 6.19	名古屋大学 学術奨励賞	大学院法学研究科 D3	本部 勝大	
H29. 6.19	名古屋大学 学術奨励賞	大学院理学研究科 D3	末永 大輝	
H29. 6.19	名古屋大学 学術奨励賞	大学院理学研究科 D3	吉村 柁彦	
H29. 6.19	名古屋大学 学術奨励賞	大学院多元数理科学研究科 D2	松井 紘樹	
H29. 6.21	Student Paper Award, The 6th International Symposium on Organic and Inorganic Electronic Materials and Related Nanotechnologies (EM-NANO 2017)	大学院工学研究科 M1	河村 真也	若松綾人（大学院工学研究科 M2）、田中久暁（大学院工学研究科助教）、竹延大志（大学院工学研究科教授）と連名
H29. 6.21	第17回日本蛋白質科学会年会 ポスター賞	大学院理学研究科 D1	四坂 勇磨	
H29. 6.21	第17回日本蛋白質科学会年会 ポスター賞	大学院理学研究科 M2	山田 志歩	
H29. 6.21	第17回日本蛋白質科学会年会 若手奨励賞	大学院理学研究科 M2	鈴木 和人	
H29. 6.23	電子情報通信学会 2017年度無線通信システム研究会 初めての研究会 優秀発表賞	大学院工学研究科 M1	亀川 智史	山里敬也（教養教育院教授）、岡田 啓（未来材料・システム研究所准教授）、藤井俊彰（大学院工学研究科教授）、他3名と連名
H29. 6.27	Best Poster Award, 9th International Conference on Molecular Electronics and Bioelectronics (M&BE9)	大学院工学研究科 M2	北村 一晟	



## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H29. 6.29	Best Paper Award, International Symposium on Green Manufacturing and Applications (ISGMA2017)	大学院工学研究科 D1	鄭 弘鎮	早坂健宏 (大学院工学研究科助教)、 社本英二 (大学院工学研究科教授) と連名
H29. 6.30	マルチメディア, 分散, 協調とモバイルシンポジウム (DICOMO2017) 野口賞 (技術賞)	大学院情報科学研究科 M2	小野瀬良佑	榎堀 優 (大学院情報学研究科助教)、 間瀬健二 (大学院情報学研究科教授) と連名
H29. 6.30	日本セラミックス協会東海支部 第54回東海若手セラミスト懇話会 優秀発表賞	大学院工学研究科 M2	地多 玲子	
H29. 6.30	日本保健物理学会 第50回研究発表会 日本放射線安全管理学会 第16回学術大会 合同大会 優秀プレゼンテーション賞	大学院工学研究科 M1	河原 亜民	森泉 純 (大学院工学研究科准教授)、 山澤弘実 (大学院工学研究科教授) と連名
H29. 7. 5	Best Poster Award, The 6th Hsinchu Summer Course and Workshop on "Single Molecule/Nanoparticle Spectroscopy and Imaging"	大学院工学研究科 M2	小山 晟矢	
H29. 7. 6	3次元画像コンファレンス2016 優秀論文賞	大学院工学研究科 M2	近藤 秀	斎藤豊大 (大学院工学研究科 M2)、 内田雄基 (大学院工学研究科 M2)、 高橋桂太 (大学院工学研究科准教授)、 藤井俊彰 (大学院工学研究科教授) と連名
H29. 7. 7	Best Oral Presentation Award, 2017 International Conference on Advanced Automotive Technology (ICAT), Republic of Korea	大学院環境学研究科 D2	シリオン ビタヌフット	青木宏文 (未来社会創造機構特任教授)、 森川高行 (未来社会創造機構教授)、 原口哲之理 (未来社会創造機構特任教授) と連名
H29. 7. 8	東海社会学会 東海社会学会優秀修士論文	大学院環境学研究科 D1	吉村 真衣	
H29. 7. 8	第21回液晶化学研究会シンポジウム 優秀ポスター発表賞	大学院工学研究科 D2	向井 孝次	
H29. 7. 8	第63回日本薬学会 東海支部大会 学生優秀発表賞	大学院創薬科学研究科 D3	川村 智祥	
H29. 7.12	Poster Presentation Award, Chirality 2017	大学院工学研究科 D2	石立 涼馬	
H29. 7.13	Best Poster Award, Nagoya Univ.-Tsinghua Univ.-Toyota Motor Corp.- Hokkaido Univ. Joint Symposium	大学院工学研究科 M2	北村 一晟	
H29. 7.14	日本核酸医薬学会 第3回年会 川原賞	大学院理学研究科 D1	シュウ ザオマ	
H29. 7.14	日本コンクリート工学会 第39回コンクリート工学講演会年次論文奨励賞	大学院環境学研究科 M1	杉本 裕紀	栗原 諒 (大学院環境学研究科 D1)、 ジリ リムス (大学院環境学研究科 D1)、 丸山一平 (大学院環境学研究科教授) と連名
H29. 7.14	日本コンクリート工学会 第39回コンクリート工学講演会年次論文奨励賞	大学院環境学研究科 M1	松田 明	丸山一平 (大学院環境学研究科教授)、 他2名と連名
H29. 7.14	第52回有機反応若手の会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M1	中川 恵太	
H29. 7.19	平成28年度電子情報通信学会 ソフトウェアサイエンス研究会 研究奨励賞	大学院情報科学研究科 M2	平岡 祥	結縁祥治 (大学院情報学研究科教授) と連名
H29. 7.24	JpGU - AGU Joint Meeting 2017 学生優秀発表賞	大学院理学研究科 D2	神谷 慶	
H29. 7.24	JpGU - AGU Joint Meeting 2017 学生優秀発表賞	大学院理学研究科 M2	旭 友希	
H29. 7.25	Poster Award, The 21st International Symposium on Advanced Display Materials & Devices (ADMD 2017)	大学院工学研究科 M2	北村 一晟	
H29. 7.26	Best Student Presentation Award, The 15th International Conference on Quality in Research	大学院情報科学研究科 D3	ブラーマストロ クレスナラマン	川西康友 (大学院情報学研究科助教)、 井手一郎 (大学院情報学研究科准教授)、 村瀬 洋 (大学院情報学研究科教授)、 他3名と連名
H29. 7.27	第27回バイオ・高分子シンポジウム 学生優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M2	服部 悠平	
H29. 7.29	日本植物病理学会 平成29年度植物感染生理 談話会 ポスター優秀発表賞	大学院理学研究科 M1	松村 護	
H29. 8. 1	Best Poster Award, Kick Off Symposium Japan-South-East Asia Collaboration Hub of Bioplastics Study	大学院工学研究科 D2	竹嶋 久晶	
H29. 8. 2	錯体化学若手研究会 「錯体化学若手の会夏の学校2017」 優秀ポスター賞	大学院理学研究科 D2	小野田浩宜	
H29. 8. 2	錯体化学若手研究会 「錯体化学若手の会夏の学校2017」 優秀ポスター賞	大学院理学研究科 M1	坂田 卓也	田中健太郎 (大学院理学研究科教授)、 河野慎一郎 (大学院理学研究科講師) と連名

## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H29. 8. 2	第19回日本 RNA 学会年会 優秀賞	大学院理学研究科 M2	伊藤 真央	
H29. 8. 3	2016年度情報処理学会 オーディオビジュアル複合情報処理研究会 AVM 賞 優秀賞	大学院工学研究科 D2	藤田 秀	
H29. 8. 3	2016年度情報処理学会 オーディオビジュアル複合情報処理研究会 AVM 賞 優秀賞	大学院工学研究科 M2	前田 哲汰	
H29. 8. 4	Best Poster Award, International ERATO Itami Molecular Nanocarbon Symposium 2017	大学院理学研究科 D1	矢野 裕太	
H29. 8. 4	Best Poster Award, International ERATO Itami Molecular Nanocarbon Symposium 2017	大学院理学研究科 M1	深谷 菜摘	
H29. 8. 5	第49回構造有機化学若手の会 夏の学校 学生ポスター賞	大学院理学研究科 M2	薄葉 純一	
H29. 8. 5	日本筋学会第3回学術集会 Student's Award 優秀賞	大学院医学系研究科 D2	磯部 茉莉	
H29. 8. 8	名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラム 総長賞	大学院理学研究科 M1	イップ シュウ ジュエン	
H29. 8. 9	一般社団法人交通工学研究会 第37回交通工学研究発表会 安全の泉賞	大学院環境学研究科 M1	石山 良太	中村英樹 (大学院環境学研究科教授)、 他1名と連名
H29. 8. 9	電子情報通信学会 超伝導エレクトロニクス研究会 SCE 学生優秀発表賞	大学院工学研究科 M2	畑中 湧貴	
H29. 8.18	「2017體育政策與休閒觀光國際學術研討會」優秀論文	大学院国際言語文化研究科 D3	李 旋	
H29. 8.18	電子情報通信学会 画像工学研究専門委員会 IE 賞	大学院工学研究科 M2	美川 翔	高橋桂太 (大学院工学研究科准教授)、 藤井俊彰 (大学院工学研究科教授) と連名
H29. 8.20	日本混相流学会 ベストプレゼンテーションアワード	大学院工学研究科 D2	小田切公秀	長野方星 (大学院工学研究科教授) と連名
H29. 8.25	情報処理学会 組み込みシステム研究会 組み込みシステムシンポジウム 2017優秀ポスター賞	大学院情報科学研究科 M2	竹松 慎弥	鍾 兆前 (大学院情報科学研究科 D2)、 本田晋也 (大学院情報学研究科准教授)、 枝廣正人 (大学院情報学研究科教授)、 他7名と連名
H29. 8.25	情報処理学会 2017年度コンピュータサイエンス領域奨励賞	大学院情報科学研究科 D2	鍾 兆前	枝廣正人 (大学院情報学研究科教授)
H29. 9. 2	第161回東海高分子研究会 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	起 貞吾	
H29. 9. 2	第161回東海高分子研究会 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	服部 悠平	
H29. 9. 2	第161回東海高分子研究会 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	宮島 雅斗	
H29. 9. 2	第16回コ・メディカル形態機能学会 学会奨励賞	大学院医学系研究科 D2	磯部 茉莉	
H29. 9. 2	第16回コ・メディカル形態機能学会 学会奨励賞	大学院医学系研究科 M2	高垣 知輝	
H29. 9. 2	第16回コ・メディカル形態機能学会 学会奨励賞	大学院医学系研究科 M2	山神 絵未	
H29. 9. 2	第161回東海高分子研究会 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	梶田 貴都	
H29. 9. 2	第161回東海高分子研究会 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	山野 雄平	
H29. 9. 8	第11回バイオ関連化学シンポジウム ポスター賞 (Organic and Biomolecular Chemistry 賞)	大学院理学研究科 D1	山田遼太郎	
H29. 9. 8	第11回バイオ関連化学シンポジウム ポスター賞 (Organic and Biomolecular Chemistry 賞)	大学院理学研究科 M2	千田樹絵子	
H29. 9. 8	第11回バイオ関連化学シンポジウム ポスター賞	大学院理学研究科 M2	鈴木 和人	
H29. 9. 9	第28回基礎有機化学討論会 ポスター賞	大学院工学研究科 D3	横井 寛生	
H29. 9. 9	第28回基礎有機化学討論会 ポスター賞	大学院理学研究科 D1	矢野 裕太	
H29. 9. 9	第28回基礎有機化学討論会 ポスター賞	大学院理学研究科 M2	薄葉 純一	
H29. 9. 9	第28回基礎有機化学討論会 ポスター賞	大学院理学研究科 M1	川井 一矢	
H29. 9. 9	第28回基礎有機化学討論会 ポスター賞	大学院工学研究科 M1	中村 泰崇	
H29. 9.11	第6回生物工学会 学生優秀賞 (飛翔賞)	大学院工学研究科 D1	小崎 一功	
H29. 9.13	第14回日本熱電学会 学術講演会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M2	山崎 匠	上野 藍 (大学院工学研究科助教)、 長野方星 (大学院工学研究科教授)、 他4名と連名
H29. 9.14	第35回日本オペレーションズ・リサーチ学会 学生論文賞	情報文化学部 4年	伊東 真由	胡 艶楠 (大学院情報学研究科助教)、 柳浦睦憲 (大学院情報学研究科教授)、 他3名と連名
H29. 9.14	第53回フラーレン・ナノチューブ・グラフェン学会 若手奨励賞	大学院理学研究科 M2	金野 泰弘	
H29. 9.14	第53回フラーレン・ナノチューブ・グラフェン学会 若手奨励賞	理学部 4年	西野眞希子	
H29. 9.14	第34回有機合成化学セミナー ポスター賞	大学院理学研究科 M2	松岡 和	

\*受賞者の所属・職名又は学年は、受賞当時

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年8月16日～9月15日]

記事	月日	新聞等名
1 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が王位戦の予選トーナメント1回戦で勝利し、2回戦進出を決めた	8.16 (水)	中日(朝刊) 他2社
2 榎文彦本学名誉博士が設計する東京・浜松町周辺の再開発計画を野村不動産株式会社や東日本旅客鉄道株式会社が発表	8.16 (水)	日経(朝刊)
3 虐待死 見逃し防ぐ 医学部附属病院が愛知県内の小児科を対象に実施した調査では、約15%の診断書に記入漏れなどの不適切な事例がみられた	8.16 (水)	日経(夕刊) 他2社
4 戦禍の記憶 生き抜いた女性たち②:終戦7年 結核襲う 糸柳暁子氏本学元職員	8.16 (水)	毎日(夕刊)
5 遠藤 守情報学研究所准教授らが開発したアプリが導入され、販売促進策「サカエゴラウンド」が実施された	8.17 (木)	読売
6 名大発 起業家育て 河野 廉学術研究・産学官連携推進本部教授は「大学として積極的に起業教育を実施し、様々なアイデアや技術を新しい事業につなげていきたい」と語る	8.18 (金)	日経(朝刊)
7 自由席:大学発ベンチャー 野田口理孝生命農学研究所助教はベンチャーを起業したが「自分には研究は向いていない、もう諦めよう」と思う時期もあったと語る	8.18 (金)	中日(朝刊)
8 長谷川明子さん工学部研究生は、ヒメボタルが2015年に半減したことについて、「(相生山緑地の整備)事業のストップで市が緑地の木の手入れを中断しているためではないか」と語る	8.18 (金)	読売
9 名大 MIRAI GSC 第2ステージ開催:17日 高校生が研究成果を披露し、発表の内容を踏まえ、選ばれた約20人が来年3月に1週間、ドイツ・フライブルグ大学などで研修を受ける	8.18 (金)	朝日(朝刊)
10 第67回 NHK 杯トーナメント 2回戦 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生対森内俊之九段の対局を9月3日にNHKが地上波で生放送をすると発表	8.18 (金)	中日(朝刊) 他2社
11 秋季高校野球地区大会:17日 教育学部附属高等学校(瀬戸北総合高等学校・名古屋商業高等学校と合同チーム)対旭丘高等学校は12-0で敗戦	8.18 (金)	毎日(朝刊)
12 第11回朝日杯将棋オープン戦1次予選2回戦、藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生対大石直嗣六段が22日に行われる	8.18 (金)	朝日(朝刊)
13 第5回 中日健康フェア開催:9月2、3日 肝炎の最新治療～肝がんにならないために～ 石上雅敏医学部附属病院講師が講演	8.18 (金) 8.19 (土) 8.20 (日)	中日(夕刊) 中日(朝刊) 中日(朝刊)
14 憂楽帳:漢語 羽山慎亮さん博士後期課程学生は「新聞記事のわかりやすさについて研究しています」と語る	8.19 (土)	毎日(夕刊)
15 宇宙はなぜ「物質」ばかり? 益川敏英本学特別教授、小林 誠同特別教授が提唱した「小林・益川理論」は「クオーク」でCP対称性の破れが存在することが1960年代に実験で発見された	8.20 (日)	日経(朝刊)
16 朝日カルチャーセンター講座 ピラミッドの港湾都市:12月10日 河江肖剰本学共同研究員	8.20 (日)	朝日(朝刊)
17 #かっこよく新聞読む:自慢の機体で 設計主任の小林翔吾さん本学学生らが手がけた「鳥人間コンテスト」に出場する機体の前で新聞を読み、パイロットの福永紘平さん本学学生は「みんなで作った機体。プレッシャーを力にして飛ぶ」と語る	8.20 (日)	朝日(朝刊)
18 武市拓也医学部附属病院助教らのグループは血小板減少症を伴う、新規の角化異常症の病因を解明	8.21 (月)	日刊工業
19 本学は英国科学誌ネイチャーが発表した研究成果が特許にどれだけ結びついたかをまとめたランキングで、国内順位9位、世界順位122位だった	8.21 (月)	日経(朝刊)
20 腎不全対策キャンペーン講演会開催:20日 大幸砂田橋クリニック院長前田憲志本学名誉教授が講演	8.21 (月)	中日(朝刊)
21 本学と奈良先端科学技術大学院大学、大阪大学などのグループは、植物の枝や根の広がり具合を決める遺伝子を発見	8.21 (月) 8.22 (火)	日経(夕刊) 日刊工業
22 天野 浩未来材料・システム研究所教授は、第24回国際光学委員会総会の開会式に出席された天皇、皇后両陛下に「(研究を)続けておられるんですね。これからも頑張ってください」と声をかけられた	8.22 (火)	朝日(朝刊) 他2社
23 山岡耕春環境学研究所教授は、警戒レベル1に引き下げられた御嶽山について「警戒レベルが引き下げられても、活火山はいつ噴火してもおかしくないことを忘れないで」と語る	8.22 (火)	中日(朝刊)
24 減災館にある「あいち・なごや強靱化共創センター」が「防災ワンストップ相談窓口」を開設した	8.22 (火)	中日(朝刊) 読売
25 第11回朝日杯将棋オープン戦 一次予選2回戦:藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が大石直嗣六段に勝利	8.22 (火)	朝日(夕刊)
26 紙つぶて:AI 大同大学学長神保睦子氏本学博士課程修了	8.22 (火)	中日(夕刊)
27 第35回博物館企画展「ムシの世界」開催:25日～10月21日 名古屋市の高校1年生の作品が展示されている	8.22 (火) 9. 7 (木)	朝日(夕刊) 中日(夕刊)
28 尾崎紀夫医学系研究所教授らのグループは、統合失調症に関連する遺伝子変異を22q11.2欠失領域のRTN4R遺伝子に世界で初めて同定	8.23 (水) 9. 1 (金)	中日(朝刊) 科学新聞
29 ネットのデマ拡散防止へ メディアに消去義務 偽ニュース ドイツが規制法 日比嘉高人文学研究所准教授は「悪質な偽ニュースを放置はできないが、法規制をすればネット言語の萎縮や付度を招き、中庸的な物言いを選びがちになってしまう」と語る	8.23 (水)	中日(朝刊)
30 シンポジウム「生命現象に介在する天然物の化学」開催:9月9日 坂田・平田ホールで行われる	8.23 (水)	中日(朝刊)
31 第11回朝日杯将棋オープン戦 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が一次予選で2連勝した	8.23 (水)	朝日(朝刊) 中日(朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年8月16日～9月15日]

記事	月日	新聞等名
32 小田洋一本学名誉教授と富山大学などの研究チームは、鱗食魚の「利き手」が決まる仕組みの一端を解明へ	8.23 (水) 8.28 (月) 8.31 (木)	日経 (夕刊) 中日 (朝刊) 朝日 (夕刊)
33 ほのぼの絵手紙 7月の月間賞：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生を描いた作品	8.23 (水)	中日 (夕刊)
34 2018中部の私立大学・短期大学 大学展開催：31日 本学の説明会が行われる	8.24 (木) 8.31 (木)	中日 (朝刊) 中日 (朝刊)
35 文化往来：藤井効果で「将棋年鑑」異例の売れ行き 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	8.24 (木)	日経 (朝刊)
36 棋王戦挑戦者決定トーナメント2回戦：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が豊島将之八段と対戦	8.24 (木)	朝日 (夕刊)
37 第76期将棋名人戦順位戦C級2組：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が勝利し3連勝	8.24 (木)	朝日 (夕刊)
38 日本抹消神経学会第六回市民公開講座「手足のしびれと痛み」開催：27日 勝野雅央医学系研究科教授が講演	8.24 (木)	中日 (朝刊)
39 第22回 NIE 全国大会名古屋大会開催：8月3日 天野 浩未来材料・システム研究所教授は「世界を照らす LED～未来を照らすことの大切さ～」と題して記念講演し「新聞を読むことで何が真実なのか見比べる力を養ってほしい」と語る	8.24 (木)	読売
40 ひと：「ブラック部活動」問題に取り組む内田 良教育発達科学研究科准教授	8.25 (金)	毎日 (朝刊)
41 未来展2017開催：29日 二宮芳樹未来社会創造機構特任教授らが討論を行う	8.25 (金)	中日 (朝刊)
42 棋王戦挑戦者決定トーナメント2回戦：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が豊島将之八段に敗れた	8.25 (金)	朝日 (朝刊) 他4社
43 川崎猛史理学研究科助教と大阪大学のグループは、過冷却水の粘度が温度の低下に伴い急速に上昇する原因をコンピュータシミュレーションで明らかにした	8.25 (金)	科学新聞
44 本学とシンガポール国立大学が「老年医学」の分野で覚書を締結した	8.25 (金) 8.30 (水)	中日 (朝刊) 読売
45 鷲谷 威減災連携研究センター教授は南海トラフ地震について「予知は無理だと広く認識されるべきだ。科学的根拠がないのに対応に強制力を持たせる枠組みを残すのは無理がある」と語る	8.26 (土)	毎日 (朝刊)
46 時のおもりに：廃炉工学科に入ろう！ 池内 了本学名誉教授	8.26 (土)	中日 (朝刊)
47 第1回瀬戸こども将棋大会開催：26日 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の地元で瀬戸市初の将棋イベントが開かれた	8.27 (日)	毎日 (朝刊) 中日 (朝刊)
48 名大レクチャー：9月16日 岡崎恒子本学特別教授、篠崎一雄本学特別教授が講演	8.27 (日)	中日 (朝刊)
49 新井史人未来社会創造機構教授は、難手術の訓練や技能評価ができる眼科手術シミュレーターを開発した	8.28 (月)	日刊工業
50 技術科学図書 書籍：「いま、もう一つの素粒子論入門」 益川敏英本学特別教授著	8.28 (月)	日刊工業
51 日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生が県立豊川特別支援学校本宮校舎を訪れ、同校の陸上部員たちと交流した	8.28 (月)	毎日 (朝刊)
52 本学と産業技術総合研究所は、日本列島の成り立ちを記録する北アルプスの地質を解明	8.29 (火)	日刊工業
53 経済教室：地銀経営の課題①「育てる金融」担う人材カギ 神戸大学教授家森信善氏本学元教授	8.29 (火)	日経 (朝刊)
54 本学や愛知県主催「あいちサイエンスフェスティバル2017」開催：30日 イオンモール新瑞橋で行われる	8.29 (火) 9. 6 (水)	日刊工業 日刊工業
55 紙つぶて：女子専用 大同大学学長神保睦子氏本学博士課程修了	8.29 (火)	中日 (夕刊)
56 アットマーク@大学：寄付金集めに知恵絞る 交付金・補助金減り、取り組み強化 本学は Development Office を立ち上げ、同室長の木村理事は「卒業生との関係を維持しながら寄付を増やしていきたい」と語る	8.29 (火)	毎日 (朝刊)
57 本学で3Dプリンターなどを使って臓器のモデルを制作する講座が開かれ、講師の森 健策情報学研究科教授は「今後もVRや人工知能など、進歩する技術を取り入れた講座を中高生らに実施していきたい」と語る	8.30 (水)	毎日 (朝刊)
58 未来展2017開催：30日 二宮芳樹未来社会創造機構特任教授が最新の自動運転技術について講演し「カメラの画像と地図のデータの照合によって、衛星利用測位システムより精度の高い位置情報の入手が可能になった」と語る	8.30 (水)	中日 (朝刊)
59 内田 良教育発達科学研究科准教授は、中央教育審議会が教育の働き方改革でタイムカードの導入など勤務時間の管理を求める緊急提言をまとめたことについて「タイムカード導入は第一歩。勤務の上限規制が必要」と語る	8.30 (水)	中日 (朝刊) 読売
60 医学部附属病院をメキシコ人12名が訪問し、「明日の医療の質向上をリードする医師養成プログラム」を見学した	8.30 (水)	中日 (朝刊)
61 柘植千佳さん農学部4年生が農家や食品加工業者と消費者を結び付けるネットサイト「Kodawarin」で「伝統野菜スープ つなぐ」を発売	8.30 (水)	朝日 (朝刊)
62 「平成」を振り返る：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生がプロデビュー以来公式戦29連勝で記録が止まった時のコメント「連勝はいつか止まるもの、完敗でした」が取り上げられる	8.30 (水)	朝日 (朝刊)
63 森川高行未来社会創造機構教授らのグループは、今秋にもドライバーが運転に関与しない「レベル4」の自動運転実験を愛知県内の公道で始める	8.31 (木)	日経 (朝刊)
64 教えて！自然災害②：南海トラフ「予知ありき」の対策見直す？ 山岡耕春環境学研究科教授は「不意打ちの地震が来る可能性も大きい。これまでの防災対策を確実に進める重要性は変わらない」と語る	8.31 (木)	朝日 (朝刊)
65 黒岩 厚理学研究科教授、鈴木孝幸同講師らのグループはヘビなど背骨を持つ脊椎動物の胴体の長さは「GDF11」の1つの遺伝子の働きによって変わることを明らかにした	8.31 (木) 9.10 (日)	読売 日経 (朝刊)
66 公開講座「リケジョの輝く未来」開催：9月16日 講師 佐々木成江理学研究科准教授	8.31 (木)	中日 (朝刊)
67 本学や愛知県立大学の学生らが今年3月に発足した学生団体「楽生(がくせい)部会」が学園祭のバリアフリー化を目指し活動している	8.31 (木)	毎日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年8月16日～9月15日]

記事	月日	新聞等名
68 羽生さん 王位失冠 7連覇逃す 若手に苦闘 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生と羽生善治王位の対戦はいつ実現するか	8.31 (木)	中日 (朝刊)
69 9月1日は防災の日 大震災を前に見たくないことも直視し事前対策を！ 福和伸夫減災連携研究センター教授	9. 1 (金)	日刊工業
70 小林光一医学系研究科客員研究員などは心筋梗塞の新治療につながる可能性のある技術を開発	9. 1 (金)	日刊工業
71 東海キャンパ：性的少数者を考える 広瀬美咲さん本学学生の取材で、本学サークル「雨上がりのしゃぼん玉」や本学で建設中の校舎の自認する性での使用が可能なトイレが紹介される	9. 1 (金)	毎日 (朝刊)
72 中嶋哲彦教育発達科学研究所教授は津波で小学校が被災するおそれのある104市町村教育委員会のうち、津波対策の研修をしたのは半数以下の48にとどまることが分かったことについて「各教育委員会は津波から児童を守る責任を負っていることを自覚し、効果的な研修を実施すべきだ」と語る	9. 1 (金)	毎日 (夕刊)
73 大幸財団人文・社会科学系研究助成：中川原育子人文学研究科助教	9. 3 (日)	中日 (朝刊)
74 キャンパスイテ推し：豊田講堂前の芝生 友人と憩いのひととき 稲垣智裕さん情報文化学部4年生	9. 3 (日)	中日 (朝刊)
75 第67回NHK杯トーナメント2回戦：3日 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が森内俊之九段と対局し、対局の様子が生放送される	9. 3 (日)	朝日 (朝刊)
76 将棋・藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生のブーム 後押し期待 囲碁も面白いよ	9. 3 (日)	読売
77 榊原 均生命農学研究科教授らはサイトカイニン輸送による植物成長促進制御の新たなしくみを発見	9. 4 (月)	日刊工業
78 澤 博工学研究科教授らはSPRING-8を用いた精密構造解析による分子軌道分布の可視化法を開発、電子状態の直接観測に成功	9. 4 (月)	日刊工業
79 大幸財団自然科学系学術研究助成：松尾拓哉遺伝子実験施設講師、伊藤英人教養教育院講師、浦川優子高等研究院特任助教、松岡広大現象解析研究センター特任准教授、片山尚幸工学研究科准教授	9. 4 (月)	中日 (朝刊)
80 第67回NHK杯トーナメント2回戦：3日 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が森内俊之九段を破った	9. 4 (月)	中日 (朝刊) 他3社
81 ひゅーまん愛知：開館10年を迎えた「戦争と平和の資料館ピースあいち」館長野間美喜子氏本学卒業生	9. 4 (月)	読売
82 3日に生放送された第67回NHK杯トーナメント2回戦 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生対森内俊之九段の対局の視聴率が3.2%で、直前の4日分の平均視聴率1%に比べ高い視聴率となった	9. 4 (月)	毎日 (夕刊)
83 山口茂弘トランスフォーマティブ生命分子研究所教授らは超解像イメージングで細胞内の微細構造を視続ける超耐光性蛍光色素を開発	9. 5 (火)	日刊工業
84 グローバルに活躍するビジネスマンを養成 国際開発研究科にグローバル企業人材育成特別課程が新設される	9. 5 (火)	中部経済
85 吉村 崇トランスフォーマティブ生命分子研究所教授、自然科学研究機構基礎生物学研究所などは、メダカの色覚が季節によってダイナミックに変化することを発見	9. 5 (火)	中日 (朝刊) 毎日 (夕刊)
86 松尾総長、日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生が人づくり革命を検討する「人生100年時代構想会議」の有識者議員に選出された	9. 6 (水)	読売 朝日 (朝刊)
87 難民理解講座開催：9日 毎日新聞にインターン研修中の鈴木七海さん本学3年生らが執筆	9. 6 (水)	毎日 (朝刊)
88 書籍「藤井聡太 名人をこす少年」藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生 津江章二著	9. 6 (水)	読売
89 本学はタイムズ・ハイヤー・エデュケーションが発表した「世界大学ランキング」で400位以内に入った	9. 6 (水)	日経 (朝刊) 他2社
90 本学などの研究を紹介し、外資系企業の誘致などで連携していくため名古屋市が独立行政法人日本貿易振興機構と包括的業務協力を結んだ	9. 7 (木)	日経 (朝刊)
91 DOCTORが薦める名医：平田 仁医学系研究科教授 正確な手術と特殊リハビリで失った手の機能を取り戻す 愛知医科大学教授牛田享宏氏の紹介	9. 7 (木)	中部経済
92 「国連 UNHCR 難民映画祭」開催：10月21、22日 イオンシネマ大高で開かれる 毎日新聞にインターン研修中の鈴木七海さん本学3年生らが執筆	9. 7 (木)	毎日 (朝刊)
93 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の出身地の瀬戸市立図書館で企画展「将棋」が開かれている	9. 7 (木)	読売
94 「クリスマスおもちゃ見本市2017」が開かれ、藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の活躍で将棋がブームになっている	9. 7 (木)	朝日 (朝刊)
95 安保考 同盟どう向き合うか 第1部同盟とは (下)：戦争近づける影も直視して 丹羽宇一郎本学名誉博士	9. 7 (木)	朝日 (朝刊)
96 「社会貢献」旨に 天野 浩未来材料・システム研究所教授は「“工” という字には人と人をつなぐ意味がある。それが工学だと教わった」と語る	9. 8 (金)	日刊工業
97 山岡耕春環境学研究所教授は中央防災会議の調査部会の座長を務め「現時点で、地震の発生時期や場所、規模を確度高く予測する科学的手法はない」と語る	9. 8 (金)	毎日 (朝刊)
98 トップ登板：売上高40億円突破めざす 本学発のベンチャー企業株式会社ティアフォー、岡谷鋼機株式会社と自動車運転分野で業務提携 アイサンテクノロジー株式会社社長加藤 淳氏	9. 8 (金)	中部経済
99 中小企業基盤整備機構中部本部は、本学など大学と連携する起業家の育成施設「名古屋医工連携インキュベータ」の入居者を募集している	9. 8 (金)	中部経済
100 東海キャンパ：「世界の是枝」直撃 映画「三度目の殺人」取材をして一言 広瀬美咲さん本学学生が「今までの作品から雰囲気ガラリと変わった」と語る	9. 8 (金)	毎日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年8月16日～9月15日]

記事	月日	新聞等名
101 第48期新人王戦の準々決勝で藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が佐々木大地四段に敗れた	9. 8 (金)	毎日 (朝刊) 他2社
102 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生も受けた「モンテッソーリ教育」	9. 8 (金)	中日 (朝刊)
103 将棋棋士の座布団 メイド・イン・愛知 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生も対局で使用したことがある	9. 8 (金)	朝日 (夕刊)
104 2018年度国公立大学入試要項：名古屋大学	9. 9 (土)	中日 (朝刊)
105 池坊 PR 大使 伊藤由実さん本学1年生が中日新聞を訪れた	9. 9 (土)	中日 (朝刊)
106 連続憲法講座「いまこそ憲法」開催：16日 池内 了本学名誉教授が「軍学共同は何をもたらすか？」をテーマに講演	9. 9 (土)	中日 (朝刊)
107 中日春秋：吉村 崇トランスフォーマティブ生命分子研究所教授などのメダカの色覚が季節によってダイナミックに変化することを解明した研究が取り上げられる	9. 9 (土)	中日 (朝刊)
108 ひもとく 部活動のこれから：書籍「ブラック部活動 子どもと先生の苦しみに向き合う」内田 良教育発達科学研究科准教授著	9.10 (日)	朝日 (朝刊)
109 松尾総長、日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生が有識者議員を務める「人生100年時代構想会議」の初会合が開かれた	9.12 (火)	中日 (朝刊) 日経 (朝刊)
110 論点：大学の研究力 若手独立が鍵 野依良治本学特別教授	9.12 (火)	読売
111 あいち女性の活躍促進セミナー開催：10月4日 基調講演 東村副理事・生命農学研究科教授	9.12 (火)	中日 (朝刊)
112 紙つぶて：国語力 大同大学学長神保睦子氏本学博士課程修了	9.12 (火)	中日 (夕刊)
113 女性首長 愛知に現れる日は 和田理事は「『経済的に豊かだから女性は働かなくてもいい』といった保守的な価値観が根強いことも要因の一つかもしれない」と語る	9.12 (火)	朝日 (夕刊)
114 野外観察園セミナーハウス サテライト展示野外観察園のボタニカルアート   夏と秋の植物開催：7月18日～11月10日	9.12 (火)	朝日 (夕刊)
115 第70回新聞週間「新聞週間記念の集い」開催：10月28日 講談・トークショー「将棋の魅力～藤井聡太物語」	9.12 (火) 9.14 (木) 9.15 (金)	朝日 (朝刊) 毎日 (朝刊) 中日 (朝刊) 日経 (朝刊)
116 佐々木成江理学研究科准教授と佐々木妙子さん博士後期課程3年生らの研究グループがヒト細胞におけるミトコンドリア DNA の維持機構を発見	9.13 (水)	中日 (朝刊)
117 サムコ科学技術振興財団第1回助成金贈呈式：天野 浩未来材料・システム研究所教授が講演し「実験に打ち込めたのは30代前半までだった。皆さんも没頭してほしい」と語る	9.13 (水)	日刊工業
118 本学は、今年の司法試験で合格者28人、合格率23.73%だった	9.13 (水)	読売 他2社
119 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の活躍の影響から愛知県美術館で調査が行われ、寄贈された収集品の中から名人戦などに使われた将棋の盤と駒の名品が発見された	9.13 (水)	中日 (夕刊)
120 本学は、民間資金を活用した社会資本整備事業として、2019年3月に大幸キャンパスに留学生宿舍「インターナショナルレジデンス大幸」を建設する	9.14 (木)	日刊工業
121 日比野高士環境学研究科教授は「究極のクリーンエネルギー」として期待される水素を古新聞から効率良く取り出す手法を開発した	9.14 (木)	中日 (朝刊)
122 企業の資金を3倍に 大学・研究機関の産学連携モデル⑨：本学と旭化成株式会社は、がん診断用のガラスデバイスを共同研究している	9.14 (木)	日刊工業
123 私見卓見：ビッグデータ時代の会計基準を 野口晃弘経済学研究科教授	9.14 (木)	日経 (朝刊)
124 博物館コンサート「アイルランド紀行」開催：20日	9.14 (木)	中日 (朝刊)
125 中経論壇：空前の将棋ブーム 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	9.14 (木)	中部経済
126 高橋雅英医学系研究科教授、高岸麻紀同特任助教などは先天性水頭症が、髄液を運ぶ繊毛の生える向きで起こることを明らかにした	9.15 (金)	日刊工業
127 内田 良教育発達科学研究科准教授は部活動について「生徒自身が部活への関わり方を選べなければ、外部指導者が過酷な練習を強いる恐れもある」と語る	9.15 (金)	中日 (朝刊)
128 育児支援 妊娠期から 高知市で症例検討会 永田雅子心の発達支援研究実践センター教授	9.15 (金)	高知
129 電子情報通信学会東海支部講演会開催：26日 天野 浩未来材料・システム研究所教授が講演	9.15 (金)	毎日 (朝刊)
130 岐阜県における濃尾地震の被害と復興についての一考察開催：30日 文学部1階小会議室第130教室で行われる	9.15 (金)	毎日 (朝刊)
131 第76期将棋名人戦C級2組順位戦4回戦：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が勝利し、4連勝	9.15 (金)	毎日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
132 笑顔：双寿園3代目石川圭一氏 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の直筆の「大志」の文字を入れた瀬戸焼と箱をデザイン	9.15 (金)	中日 (朝刊)
133 オープンカレッジ：『福祉国家を越えて』を再読する「国家」から「世界」への問題提起 名古屋市立大学教授 藤田菜々子氏本学博士後期課程修了	9.15 (金)	中部経済
134 三好由純宇宙地球環境研究所准教授、小路真史同特任教授のグループは、宇宙のプラズマから電波が生まれる瞬間の特定に成功	9.15 (金)	中日 (夕刊)
135 あの人に迫る：部活動の暗部を伝えるのは使命 内田 良教育発達科学研究科准教授	9.15 (金)	中日 (夕刊)

## イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**10月20日(金)～11月14日(火)**

場 所：中央図書館 2階ビブリオサロン  
時 間：9:00～21:00  
対 象：一般  
入 場 料：無料

### 附属図書館2017年秋季特別展 「旗本高木家の明治維新」(高木家文書展)

内 容：所蔵する「高木家文書」のなかから明治維新期の資料を取り上げ、旗本高木家が明治維新において果たした役割を紹介する



[問い合わせ先]

附属図書館研究開発室 052-789-3697

**10月20日(金)、21日(土)**

場 所：名古屋マリオットアソシアホテル  
16階タワーズボールルーム、他  
(名古屋市中村区)  
時 間：10:00～18:00 (10/20)、  
9:00～13:00 (10/21)  
対 象：学生、一般

### 博士課程教育リーディングプログラムフォーラム 2017「未来を創る博士人材、未来に受け継ぐ博士課程教育」

内 容：全国62の博士課程教育リーディングプログラムにおける成果の発信や大学院教育に関する議論を通じ、産業界へ博士人材の価値を見出すきっかけを提供することを目的として開催する



[問い合わせ先]

リーディング大学院推進機構本部  
052-789-5265

**10月25日(水)～1月20日(土)**

場 所：減災館  
時 間：13:00～16:00  
休 館 日：日・月・祝日、  
第2第4火曜日、  
12月28日～1月4日  
入 場 料：無料

### 減災館第23回特別企画展「人々が書き残した震災 —濃尾地震と昭和東南海地震—

[スペシャルギャラリートーク]

時 間：13:30～

場 所：減災館

講演題目：「人々が書き残した震災—濃尾地震と昭和東南海地震—  
(10/25、12/5)

講 演 者：西澤泰彦(環境学研究科教授)

講演題目：「『紅の血は燃ゆる』学徒勤労動員の記録から見る昭和東南海地震」(10/26、11/25)

講 演 者：都築充雄(減災連携研究センター寄附研究部門准教授)



[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

**11月7日(火)～1月20日(土)**

場 所：博物館 2階展示室  
時 間：10:00～16:00  
休 館 日：日・月曜日、  
12月29日～1月3日、1月13日  
入 場 料：無料

### 第36回博物館企画展 「計る 測る 量る —明治～平成のアナログ計測・観測・計測機器」



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

名大トピックス No.293 平成29年10月16日発行

編集・発行/名古屋大学総務部総務課広報室

本誌に関するご意見、ご要望、受賞の掲載、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町(〒464-8601)

TEL 052-789-2699 FAX 052-789-2019 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

表紙

留学生が参加する短期日本語プログラム(NUSTEP)の様子  
(平成29年7月17日)



名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ(<http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/publication/index.html>)でもご覧いただけます。

## 186 名大の最寄り駅① — 路面電車の時代 —

現在の名大の最寄り駅といえば、東山キャンパスなら地下鉄名城線の「名古屋大学」駅、鶴舞キャンパスなら地下鉄鶴舞線及びJR中央本線の「鶴舞」駅です。

現在の鶴舞キャンパスに、医学部の前身である愛知県立医学専門学校が移転したのは1914(大正3)年のことです。まだ地下鉄はなく、路面電車の時代でした。1910(明治43)年に「上前津」駅と「新栄町」駅を結ぶ路線が開業し、「鶴舞公園」駅(正確には停留場)が置かれていましたが、その隣に愛知病院(愛知医専の病院)からとった「病院前」駅がありました。同駅は、愛知医専が大学に昇格すると「大学病院前」駅になります。中央本線の「鶴舞」駅ができたのは、名古屋医科大学が名古屋帝国大学医学部となる2年前の1937(昭和12)年のことです。

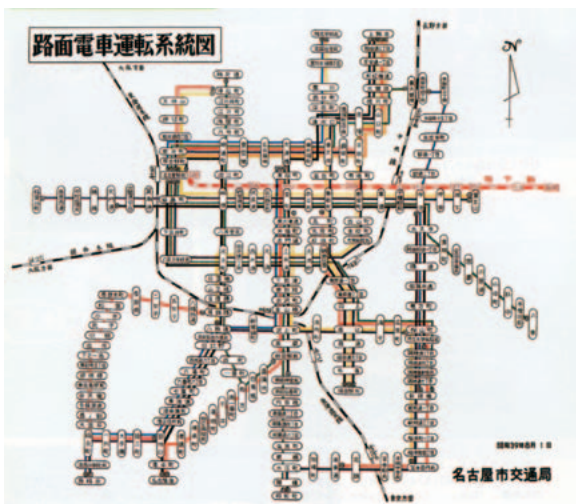
名帝大の校舎が東山に建ち始めた1942年には、路面電車の路線が市内にかなり広がっていました。しかし大学のすぐ近くを通る駅はなく、「本山橋」駅から500mほども離

れていました。「本山橋(のち本山)」駅は、東山公園(動植物園)が開園した1937年に、「覚王山」駅と「東山公園」駅を結ぶ路線が開通した際に置かれました。

戦後、名大のキャンパスは各地に分散し、それぞれに路面電車の最寄り駅がありました。

1964年まで旧教養部のあった瑞穂地区(現名市大滝子キャンパス)は、現在は地下鉄駅から500mほど離れていますが、当時はすぐ近くに「滝子」駅がありました。1959年まで経済学部のあった桜山地区(現名市大桜山キャンパス)は「桜山町」駅です。本部や文理学部等の名城キャンパス(現愛知県体育館)は「大津橋」駅と「名古屋城」駅でしたが、名鉄瀬戸線の「本町」駅や「土居下」駅の方が、2つの門にやや近かったようです。

名大の学部が東山に集結した1960年代半ば頃、すでに乗客数では市バスが路面電車を追い越し、地下鉄も登場していました。それ以後の話は次回で取り上げます。



1	2	3
4		

- 1 路面電車に乗る名古屋高等商業学校の学生たち(1933年頃)。名高商は経済学部の前身で、戦後も経済学部がその校舎を使っていた。桜山町駅(現在の桜山交差点辺り)は1928年に置かれたが、1932年から44年までは「高商前」駅もあった。
- 2 唐山駅付近を走る路面電車(1960年、撮影:井上大令氏)。当時は、本山駅(現在の本山交差点辺り)と東山公園駅(現在の東山公園口西交差点辺り)の間に唐山駅があった。直線距離だけで言えば同駅や東山公園駅の方が最寄りかもしれない。
- 3 大学病院前駅へ向かって走る路面電車(1970年、撮影:服部重敬氏)。同駅は、現在の名大病院西交差点辺りにあった。
- 4 名古屋市の路面電車系統図(1964年8月)。名古屋市の路面電車は、当初は民営であったが、1922年から市による買収が進み、1937年には市内全線が市営化した。